

オオタバコガ情報第1号（ダイズ・キャベツ・キク）

令和5年8月1日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

ほ場での発生状況に注意し、発生を確認したら防除しましょう！

1 発生生態

本種は1卵ずつ葉裏等に産卵するので、幼虫期に集団で食害することはありません。若齢幼虫期には展開中の新葉や花のつぼみに潜り込むことが多く、中齢幼虫期以降は莢や果実の内部、茎の中や結球の内部へ移動します。終齢幼虫は土に浅く潜って蛹化します。

本種の寄主範囲は極めて広く、ダイズ、キャベツ、キク以外にもトマト、ナス、キュウリ、イチゴなどの野菜類、バラ、カーネーションなどの花き類で被害が記録されています。農作物への被害は、7～10月に最も多くなります。

2 発生状況

7月下旬に県内6地点11か所のキクほ場で行った巡回調査の結果、本虫の寄生茎率は0%（過去6年平均0.16%、前年0.09%）で平年並です。

フェロモントラップにおける本種の誘殺数は、概ね平年並ですが、西尾市のダイズほ場では6月第1半旬から7月第5半旬の総誘殺数は過去10年で2番目に多い状況です（図1）。

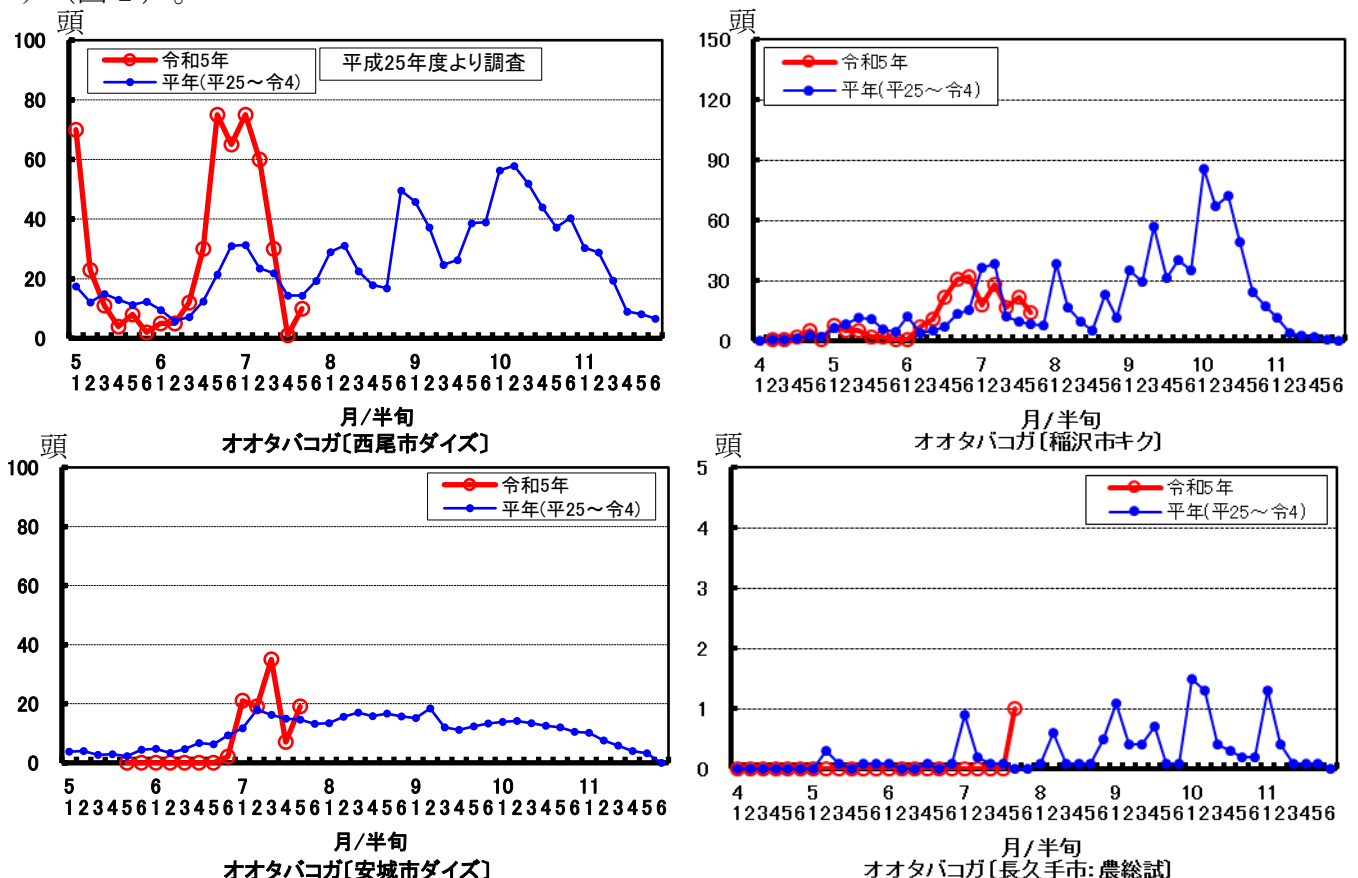


図1 フェロモントラップにおける誘殺状況

3 今後の予測

7月27日名古屋地方気象台発表の1か月予報によれば、向こう1か月の気温は高いと見込まれています。本種の増殖に適する天候が予想されるため、**発生量が増加する可能性**があります。

4 本種による被害と防除対策

ダイズにおける本種による被害は、ハスモンヨトウのように幼虫が集団で葉を食害せず、白変葉にならないため、ほ場外からの観察で発生を確認することは困難です。また、直接、莢を加害する(図2)ことから、被害が大きくなります。**ダイズでは産卵が多い開花期までの防除が重要です。**

茎、花蕾、果実及びキャベツ等の結球部に食入した幼虫や、発育が進んだ幼虫には薬剤の効果が著しく低下するため、若齢幼虫のうちに薬剤防除を徹底しましょう。

キクでは着蕾後に加害を受けると商品価値が著しく低下するため、**着蕾以降は特に注意しましょう。**

被害部位の残渣は、卵や幼虫が付着している可能性があるため、放置せず適切に処分しましょう。

表を参考に、発生を確認したら防除しましょう。薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同じIRACコードの薬剤は連用しないようにしましょう。

表 オオタバコガに対する主な防除薬剤(散布)

作物名	農薬名	使用時期	使用回数	IRACコード
ダイズ	アタブロン乳剤	収穫14日前まで	2回以内	15
	プレバソフロアブル5	収穫7日前まで	2回以内	28
	プレオフロアブル	収穫7日前まで	2回以内	UN
キャベツ	プレオフロアブル	収穫7日前まで	2回以内	UN
	アクセルフロアブル	収穫前日まで	3回以内	22B
	ディアナSC	収穫前日まで	2回以内	5
きく	ヨーバルフロアブル	発生初期	3回以内	28
	ブロフレアSC	発生初期	3回以内	30
花き類・観葉植物	アフーム乳剤	発生初期	5回以内	6
	プレオフロアブル	発生初期	4回以内	UN

IRACコードは殺虫剤の作用機構による分類を示す。

IRACコードの詳細は、

https://www.jcpa.or.jp/assets/file/lab0/mechanism/mechanism_irac02.pdfを参照する。

農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努めましょう。



図2 ダイズの莢を食害する老齢幼虫



図3 キクの花蕾を加害するオオタバコガ幼虫